(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第3933629号

(P3933629)

(45)発行日　平成19年6月20日(2007.6.20)　(24)登録日　平成19年3月30日(2007.3.30)

(51)Int.Cl.		F I		
B65D 5/462	(2006.01)	B65D	5/46	A
B65D 71/28	(2006.01)	B65D	71/00	H
B65D 5/483	(2006.01)	B65D	5/46	Z
		B65D	5/48	J

請求項の数 13　(全 11 頁)

(21)出願番号　特願2003-571169(P2003-571169)
(86)(22)出願日　平成15年2月21日(2003.2.21)
(65)公表番号　特表2006-500286(P2006-500286A)
(43)公表日　平成18年1月5日(2006.1.5)
(86)国際出願番号　PCT/US2003/005391
(87)国際公開番号　WO2003/072453
(87)国際公開日　平成15年9月4日(2003.9.4)
審査請求日　平成16年10月15日(2004.10.15)
(31)優先権主張番号　0204090.5
(32)優先日　平成14年2月21日(2002.2.21)
(33)優先権主張国　英国(GB)

(73)特許権者　503056492
ミードウエストヴェイコ・パッケージング・システムズ・エルエルシー
アメリカ合衆国・ヴァージニア・２３０６０・グレン・アレン・ウェスト・ブロード・ストリート・１１０１３
(74)代理人　100064908
弁理士　志賀　正武
(74)代理人　100089037
弁理士　渡邊　隆
(74)代理人　100101465
弁理士　青山　正和
(74)代理人　100108453
弁理士　村山　靖彦

最終頁に続く

(54)【発明の名称】物品用カートンおよびそのためのブランク

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

複数の物品を携行するためのバスケットタイプの物品用カートンであって、

対向側壁を形成するための複数の側壁パネルと、対向端壁を形成するための複数の端壁パネルと、互いに側方に配置されていて前記対向側壁パネルに対して折曲可能に連結された一対をなす頂壁パネルと、これら頂壁パネルに対して折曲可能に連結された携行ハンドルと、を具備し、

前記ハンドルが、格納位置と、この格納位置よりも高い位置に位置した延出位置と、の間にわたって移行可能とされ、

前記頂壁パネルの各々が、前記ハンドルが前記格納位置とされた時にはアーチ形状をなして撓み得るようなサイズとされつつ、前記ハンドルに対しておよびそれぞれ対応する側壁パネルに対して折曲可能に連結され、

前記頂壁パネルが、前記ハンドルが前記延出位置とされた時には前記ハンドルに向かう向きにおいて前記側壁パネルよりも上方に位置していることを特徴とする物品用カートン。

【請求項２】

請求項１記載の物品用カートンにおいて、

前記ハンドルが、前記延出位置とされた時には、前記側壁パネルの上端エッジを含む水平面よりも上方に配置され、

前記ハンドルが、前記格納位置とされた時には、前記側壁パネルの前記上端エッジを含

む前記水平面よりも少なくとも部分的に下方に位置していることを特徴とする物品用カートン。

【請求項３】

請求項１または２記載の物品用カートンにおいて、

さらに、前記各頂壁パネルと前記ハンドルとを折曲可能に連結する中間パネルを具備し、

これら中間パネルが、前記ハンドルの前記格納位置においては前記ハンドルに向けて下向きに延在し、前記ハンドルの前記延出位置においては前記ハンドルに向けて上向きに延在することを特徴とする物品用カートン。

【請求項４】

請求項１～３のいずれか１項に記載の物品用カートンにおいて、

前記各頂壁パネルが、さらに、少なくとも１つの穴を備え、

この穴が、物品の上部を受領するものとされていることを特徴とする物品用カートン。

【請求項５】

請求項４記載の物品用カートンにおいて、

前記少なくとも１つの穴が、全体的に楕円形状のものとされ、これにより、前記格納位置と前記延出位置との双方の位置において直径が円形とされていることを特徴とする物品用カートン。

【請求項６】

請求項１～５のいずれか１項に記載の物品用カートンにおいて、

前記パネルが、さらに、前記両側壁パネルを相互連結するための一対をなす端壁パネルを備えていることを特徴とする物品用カートン。

【請求項７】

請求項３記載の物品用カートンにおいて、

前記中間パネルが、前記ハンドルの前記延出位置においては、前記側壁パネルの上端エッジを含む水平面よりも上方に配置され、なおかつ、前記ハンドルの前記格納位置においては、前記側壁パネルの前記上端エッジを含む前記水平面よりも少なくとも部分的に下方に位置していることを特徴とする物品用カートン。

【請求項８】

請求項１記載の物品用カートンにおいて、

前記アーチ形状が、上に凸である形状とされていることを特徴とする物品用カートン。

【請求項９】

請求項６記載の物品用カートンにおいて、

前記各端壁パネルが、前記側壁パネルの互いに隣接する端部エッジどうしの間を連結していることを特徴とする物品用カートン。

【請求項１０】

請求項６記載の物品用カートンにおいて、

前記ハンドルが、前記延出状態においては、前記端壁パネルの上端エッジよりも上方に配置され、なおかつ、前記格納位置においては、前記端壁パネルの前記上端エッジよりも少なくとも部分的に下方に位置していることを特徴とする物品用カートン。

【請求項１１】

複数の物品を携行するための物品用カートンを形成するためのブランクであって、

前記カートンの対向側壁を形成するための複数の側壁パネルと、

前記カートンの対向端壁を形成するための複数の端壁パネルであるとともに前記複数の側壁パネルに対して折曲可能に連結された複数の端壁パネルと、

互いに側方に配置されていて前記対向側壁パネルに対して折曲可能に連結された一対をなす頂壁パネルと、

これら頂壁パネルに対して折曲可能に連結された携行ハンドルと、

を具備し、

前記ハンドルが、格納位置と、この格納位置よりも高い位置に位置した延出位置と、の

間にわたって移行可能とされ、
前記頂壁パネルの各々が、前記ハンドルが前記格納位置とされた時にはアーチ形状をなして撓み得るようなサイズとされつつ、前記ハンドルに対しておよびそれぞれ対応する側壁パネルに対して折曲可能に連結され、
前記頂壁パネルが、前記ハンドルが前記延出位置とされた時には前記ハンドルに向かう向きにおいて前記側壁パネルよりも上方に位置していることを特徴とするブランク。
【請求項１２】
請求項１１記載のブランクにおいて、
さらに、前記各頂壁パネルと前記ハンドルとを折曲可能に連結する中間パネルを具備し、
これら中間パネルが、前記物品用カートンの組立状態において、前記ハンドルの前記格納位置においては前記ハンドルに向けて下向きに延在し、前記ハンドルの前記延出位置においては前記ハンドルに向けて上向きに延在することを特徴とするブランク。
【請求項１３】
請求項１１または１２記載のブランクにおいて、
前記各頂壁パネルが、さらに、少なくとも１つの楕円形状穴を備え、
この少なくとも１つの楕円形状穴が、物品の上部を受領するものとされていることを特徴とするブランク。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、例えばバスケットタイプのカートンといったような、瓶のような複数の物品を収容し得るよう構成された物品用カートンに関するものであり、また、そのようなカートンを形成するためのブランクに関するものである。特に、本発明は、物品用カートンのための格納可能ハンドルに関するものである。
【背景技術】
【０００２】
通常、物品用カートンは、ハンドル構造を備えており、このハンドル構造を使用することによって、カートンを持ち上げて携行し得るものとされている。複数の瓶は、ハンドル構造の両サイドにおいてそれぞれ列状をなして収容されている。このようなカートンに付随する問題点は、ハンドルが瓶頂部よりも上方へと突出していることにより、ハンドルが、運搬時に（あるいは、輸送時に）カートンどうしを積み重ねることを困難としてしまうことである。それは、あるカートンの上にさらなるカートンを積み重ねた際に、ハンドル構造が曲がってしまったり、場合によっては、ハンドル構造が引き破られたりしてしまいかねないからである。したがって、公知の物品用カートンは、積み重ねることに関しては、適していない。独国特許出願公開第２７２３９５７号明細書には、直立ハンドルの両サイドに設置された複数の個別セル内に瓶を受領し得るような、バスケットタイプのカートンが開示されている。この文献におけるハンドルは、収容位置と使用位置との間にわたって移動可能ではあるけれども、ハンドルに、頂壁パネル内に誘起された張力を使用することによってハンドルの延出や格納を補助し得るようになっている機構を設けることに関しては、一切の示唆がない。
【発明の開示】
【課題を解決するための手段】
【０００３】
本発明およびその好ましい実施形態は、従来技術における上記問題点を解決することあるいは少なくとも軽減することを追求するものである。
【０００４】
本発明の第１見地においては、例えば複数の瓶といったような複数の物品を携行するためのバスケットタイプの物品用カートンであって、対向側壁を形成するための複数の側壁パネルと、対向端壁を形成するための複数の端壁パネルと、互いに側方に離間していて対

向側壁パネルに対して折曲可能に連結された一対をなす頂壁パネルと、これら頂壁パネルに対して折曲可能に連結された携行ハンドルと、を具備し、ハンドルが、ハンドルが物品の頂面よりも下方に位置した格納位置と、ハンドルが物品の頂面よりも上方に突出した延出位置と、の間にわたって移行可能とされ、頂壁パネルが、各頂壁パネルが弾性的に撓み得るようなサイズとされているとともに、各頂壁パネルが弾性的に撓み得るようにして、ハンドルに対して折曲可能に連結され、ハンドルの最初の引っ張り上げ移動時にはおよび頂壁パネルのさらなる移動によって緩和されたときにも、頂壁パネルに対して印加された張力によって、飛出効果が得られ、ハンドルの最初の押し下げ移動時にはおよび頂壁パネルのさらなる移動によって緩和されたときにも、頂壁パネルに対して印加された張力によって、格納効果が得られるようになっている物品用カートンを提供する。

【０００６】

また、飛出効果は、側壁パネルの上端エッジを含む水平面よりも上方へと頂壁パネルが移動したときに得られ、格納効果は、側壁パネルの上端エッジを含む水平面よりも下方へと頂壁パネルが移動したときに得られるようになっている。

【０００７】

本発明のこの見地における付加的な特徴点においては、さらに、各頂壁パネルとハンドルとを折曲可能に連結する中間パネルを具備している。この中間パネルは、格納位置における下向き状態から、延出位置における上向き状態へと、移行可能であるよう構成され、これにより、ハンドルが頂壁パネルに対して撓むことを可能としている。

【０００８】

本発明のこの見地における他の付加的な特徴点においては、各頂壁パネルは、さらに、物品の上部を受領するための１つ以上の穴を備えている。

【０００９】

好ましくは、穴は、楕円形状のものとされ、これにより、格納位置と延出位置との双方の位置において直径が円形とされている。

【００１０】

本発明のこの見地における付加的な特徴点においては、カートンは、バスケットタイプのカートンとされる。

【００１１】

本発明の第２見地においては、複数の物品を携行するための物品用カートンを形成するためのブランクであって、カートンの対向側壁を形成するための複数の側壁パネルと、カートンの対向端壁を形成するための複数の端壁パネルであるとともに複数の側壁パネルに対して折曲可能に連結された複数の端壁パネルと、互いに側方に離間していて対向側壁パネルに対して折曲可能に連結された一対をなす頂壁パネルと、これら頂壁パネルに対して折曲可能に連結された携行ハンドルと、を具備し、頂壁パネルが、組立状態の物品用カートンにおいて各頂壁パネルが弾性的に撓み得るようなサイズとされているとともに、組立状態の物品用カートンにおいて各頂壁パネルが弾性的に撓み得るようにして、ハンドルに対して折曲可能に連結され、ハンドルの最初の引っ張り上げ移動時にはおよび頂壁パネルのさらなる移動によって緩和されたときにも、頂壁パネルに対して印加された張力によって、飛出効果が得られ、ハンドルの最初の押し下げ移動時にはおよび頂壁パネルのさらなる移動によって緩和されたときにも、頂壁パネルに対して印加された張力によって、格納効果が得られるようになっているブランクが提供される。

【００１３】

本発明の第２見地における付加的な特徴点においては、さらに、各頂壁パネルとハンドルとを折曲可能に連結する中間パネルを具備し、この中間パネルは、格納位置における下向き状態から、延出位置における上向き状態へと、移行可能であるよう構成され、これにより、物品用カートンの組立状態においてハンドルが頂壁パネルに対して撓むことを可能としている。

【００１４】

本発明の第２見地における他の付加的な特徴点においては、頂壁パネルは、さらに、物

品の上部を受領するための楕円形状をなす複数の穴を備えている。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１６】

以下、添付図面を参照しつつ、本発明を何ら限定するものではない単なる例示としてのいくつかの実施形態を例にとって、本発明に関して説明する。

【００１７】

特に図１には、物品用カートンを形成するためのブランク（１０）が示されている。このブランク（１０）は、厚紙や他の適切な折曲可能シート材料から形成されている。このブランクから形成された物品用カートンは、複数の物品を収容し得るように構成されている。例えば、３個の瓶からなる２つの列として配列された６個の瓶を収容することができる。カートンを、使用者の要求に応じて様々な数の様々な物品を収容し得るように構成し得ることが、想定されている。

【００１８】

ブランク（１０）は、物品用カートンの両側壁と両端壁と底壁とを形成するための複数のパネルを備えている。この実施形態においては、ブランク（１０）は、第１端壁パネル（１２）と、第１側壁パネル（１４）と、第２端壁パネル（１６）と、第２側壁パネル（１８）と、を備えているとともに、これらパネルが、折曲線（２０，２２，２４）のそれぞれに沿って隣接するパネルどうしが互いに折曲可能に連結されているようにして、構成されている。

【００１９】

図１においては、『アローヘッド』スタイルのバスケット型カートンが形成される。この場合、両端壁を互いに押すことで、両対向側壁パネルを離間させる。これを行うために、両端壁パネルは、２つの部分に分割されている。これにより、第１端壁パネル（１２）は、折曲線（３０）に沿って互いに折曲可能に連結された第１部分（２６）と第２部分（２８）とを備えている。同様に、第２端壁パネル（１６）は、折曲線（３６）に沿って互いに折曲可能に連結された第１部分（３２）と第２部分（３４）とを備えている。当然のことながら、本発明の範囲を逸脱することなく、他の実施形態として、『平行四辺形』スタイルのバスケット型カートンを使用し得ることが、想定されている。

【００２０】

１つ以上の固定フラップ（３８，４０，４２）が、両端壁パネルのうちの一方のパネル（１２）の端部エッジに対して、折曲可能に連結されている。これにより、後述するように、カートンの組立時には、カートンブランクの対向端に対しての固定を行うことができる。

【００２１】

底壁パネル（４６，５０）が設けられている。これら底壁パネル（４６，５０）は、好ましくは、それぞれ対応する折曲線（４８，５１）に沿って、それぞれ対応する第１および第２側壁パネル（１４，１８）に対して、折曲可能に連結されている。

【００２２】

ハンドル構造（Ｈ）が設けられている。このハンドル構造（Ｈ）は、１つ以上の頂壁パネルを介して、物品用カートンの側壁または端壁に対して連結されている。そのため、頂壁パネル（５２）が、折曲線（５４）に沿って第１側壁パネル（１４）に対して折曲可能に連結されているとともに、第２頂壁パネル（６８）が、折曲線（７０）に沿って第２側壁パネル（１８）に対して折曲可能に連結されている。

【００２３】

図１においては、ハンドル構造（Ｈ）は、一対をなすハンドルパネル（６２，７６）によって構成されている。これらハンドルパネル（６２，７６）は、それぞれ対応する折曲線（６４，７８）に沿って、それぞれ対応する頂壁パネル（５２，６８）に対して、折曲可能に連結されている。各ハンドルパネルには、握り孔（６５ａ，６５ｂ）と、１つ以上のハンドルフラップ（６６ａ，６６ｂ）と、が設けられている。これにより、より快適なハンドル構成がもたらされている。頂壁パネル（５２，６８）は、さらに、それぞれ対応

する頂壁パネル（５２，６８）から切り出された１つ以上の穴（５６ａ，５６ｂ）を備えている。これら穴は、楕円形状のものとすることができ、物品を受領し得るよう平面視においては円形をなすものとすることができる。しかしながら、本発明の範囲を逸脱することなく、他の形状を想定することもできる。図１における穴の形状に基づき、頂壁パネルは、詳細に後述するように、延出位置から格納位置へと移動することができる。

【００２４】

さらに、１つ以上の突出タブ（５７ａ，５７ｂ）を設けることができる。これら突出タブ（５７ａ，５７ｂ）は、それぞれ対応する側壁パネル（１４，１８）から突出している。

【００２５】

ある種の実施形態においては、ハンドル構造（Ｈ）は、頂壁パネル（５２，６８）に対して撓むことができる。そして、この目的のために、中間パネル（５８，７２）が、それぞれ対応する折曲線（６０，６４；７４，７８）に沿って、頂壁パネル（５２，６８）とハンドルパネル（６２，７６）と折曲可能に相互連結している。

【００２６】

物品用カートンは、直線ライン型機械において、一連をなす複数の折曲操作および複数の接着操作を行うことによって形成し得ることが想定されている。よって、カートンを完成させるに際して、回転させたりひっくり返したりする必要はない。折曲操作は、後述のものに限定されるものではなく、特定の製造要求に従って変更することができる。

【００２７】

図２，３，４は、カートンの形成プロセスを示している。組立の第１ステージにおいては、側壁および端壁を形成する。これに際しては、パネル（２６）を折曲線（３０）に沿って内向きに折り曲げ、このパネル（２６）を、図３に示すような、パネル（２８）に対向した位置関係とする。その後、第２側壁パネル（１８）を折曲線（３６）に沿って内向きに折り曲げ、これにより、この第２側壁パネル（１８）を、第１側壁パネル（１４）に対してオーバーラップした位置関係とする。第２側壁パネル（１８）を、接着剤（Ｇ）（図３）によりあるいは従来技術において公知の他の適切な手段により、固定フラップ（３８）に対して固定する。これにより、カートンは、図４に示すような、フラットで圧潰された状態となり、使用者に対しての、あるいは、瓶詰めおよび最終組立のための瓶詰めプラントに対しての、供給待受状態となる。

【００２８】

いくつかの実施形態においては、ハンドルパネル（６２，７６）を、接着剤（Ｇ）によりあるいは従来技術において公知の他の適切な手段により、互いに固定する。

【００２９】

図４のカートンを立体化するには、折曲線（３０，３６）によって少なくとも部分的に規定された対向端部エッジどうしを、内向きに押し込む。これにより、パネル（３４，１８，２６）を、それぞれ対向するパネル（３２，１４，２８）から離間させる。周知なように、例えば瓶（Ｂ１，Ｂ２，Ｂ３）といったような物品を、物品用カートンとこれら瓶との間の鉛直方向相対移動によって、物品用カートン内へと導入する。さらに、各瓶の外周部分を、穴（５６ａ，５６ｂ）内へと挿入する。底壁パネル（４６，５０）を、内向きに折り曲げて、接着剤によって、あるいは、当業者には公知であるような例えばロックタブ構成といったような他の適切な手段によって、オーバーラップ状態でもって互いに固定する。これにより、物品用カートンが組み立てられ、図５に示すような、物品が導入された状態となる。

【００３０】

カートンの組立を完成させて、複数の物品用カートンの荷積みを可能とし得るよう、すなわち、複数の物品用カートンの積み重ねを可能とし得るよう、ハンドル構成を、図６に示すように、下向き（Ｘ方向）に押し込む。

【００３１】

頂壁パネル（５２，６８）は、ハンドルが下向き移動したときには各側壁パネル（１４

，１８）および／または各頂壁パネル（５２，６８）が弾性的に撓み得るような、サイズとされておりかつそのようにしてハンドル（Ｈ）に対して折曲可能に連結されている。これにより、頂壁パネル（５２，６８）は、ハンドル（Ｈ）の最初の下向き移動時には、張力が印加された状態とされる。

【００３２】

ハンドル（Ｈ）の下端エッジ（Ｅ）（図７および図８）が、側壁（１４，１８）の上端エッジを含む水平面（Ｐ）（図８）よりも下方に押し込まれたときには、頂壁パネルに対する張力は、ハンドル構造（Ｈ）を下向きに押し下げ、自動的格納効果をもたらす。これにより、ハンドル（Ｈ）は、図６および図７に示すように、瓶（Ｂ３）の頂部よりも下方に位置している。

【００３３】

このハンドル移動を補助し得るよう、中間パネル（５８，７２）は、関節運動部材として機能することができ、ハンドル（Ｈ）を、頂壁パネル（５２，６８）に対して移動させることができる。これにより、中間パネル（５８，７２）は、図９に示すような上向き状態から、図７に示すような下向き状態へと、移行することができ、これにより、頂壁パネルの破れや破損が起こってしまう可能性を低減することができる。

【００３４】

これとは逆に、ハンドル（Ｈ）を、図７に示す格納位置から、延出位置へと、移動させるには、エンドユーザーが、ハンドルを引っ張り上げる。これにより、頂壁パネルが上向きに駆動され、側壁パネル（５２，６８）が、撓むこととなる。実施形態によっては、側壁パネルに加えて、中間パネル（５８，７２）が撓むこととなる。ハンドル（Ｈ）の下端エッジ（Ｅ）が、図８に示す水平面（Ｐ）を通過したときには、側壁パネル（５２，６８）が、ハンドル構造を上向きに押し上げ、これにより、飛出効果（あるいは、ポップアップ効果）を引き起こす。

【００３５】

『飛出効果』および『自動的格納効果』は、頂壁パネルの幅（Ｗ１，Ｗ２）（中間パネルの幅を含めた幅）を、端部壁の幅（Ｗ３）よりも大きいものとすることにより、水平面（Ｐ）内において非平衡効果を引き起こすことによって、引き起こされる。

【００３６】

本発明を使用する際の１つの利点は、瓶詰めの完了した複数のカートンを、ハンドル構造の剛性を破壊することなく、カートンどうしを積み重ねることによって貯蔵したりあるいは荷積みしたりし得ることである。

【００３７】

本発明およびそのいくつかの好ましい実施形態は、バスケットタイプのカートンにおいて格納可能なハンドル構造を付与するための構成に関するものである。しかしながら、本発明を、例えば巻付型カートンや完全閉塞型カートンといったような様々なタイプのカートンに対して適用し得ることが想定されている。本発明は、上述したタイプのカートンに限定されるものではない。

【００３８】

本明細書においては、『頂』や『底』や『側』や『内側』や『外側』や『上側』や『下側』といったような向きに関する用語が、各パネルをそのような向きに限定するものではなく、各パネルを互いに識別するためだけに機能していることは、理解されるであろう。また、すべての折曲可能な連結は、単一の折曲線だけによって構成し得るものではない。実際、折曲可能な連結は、本発明の範囲を逸脱することなく、切込線や切取線や折曲線の中の１つ以上のものから形成することができる。

【００３９】

本発明の範囲を逸脱することなく、様々な変形を加え得ることは、理解されるであろう。例えば、パネルや開口のサイズや形状は、様々なサイズや形状の物品を収容し得るように調節することができ、また、代替可能な底壁閉塞構造を使用することもできる。物品カートンは、様々なアレイでもって１個以上の物品を収容することができる。

【図面の簡単な説明】
【００４０】
【図１】本発明の一見地による物品用カートンを形成するための枚葉式ブランクを示す平面図である。
【図２】図１に示すブランクから物品用カートンを形成する際の各ステップを示す平面図である。
【図３】図１に示すブランクから物品用カートンを形成する際の各ステップを示す平面図である。
【図４】図１に示すブランクから物品用カートンを形成する際の各ステップを示す平面図である。
【図５】組立状態かつ物品収容状態でもって物品用カートンを示す斜視図であって、ハンドルが、延出位置とされている。
【図６】図５の物品用カートンを示す斜視図であって、ハンドル構造が、格納位置とされている。
【図７】図５および図６の物品用カートンを示す断面視図であって、ハンドル構造の飛出効果が示されている。
【図８】図５および図６の物品用カートンを示す断面視図であって、ハンドル構造の飛出効果が示されている。
【図９】図５および図６の物品用カートンを示す断面視図であって、ハンドル構造の飛出効果が示されている。
【符号の説明】
【００４１】
１０　ブランク
１２　第１端壁パネル
１４　第１側壁パネル
１６　第２端壁パネル
１８　第２側壁パネル
４６　底壁パネル
５０　底壁パネル
５２　頂壁パネル
５６ａ　穴
５６ｂ　穴
５８　中間パネル
６２　ハンドルパネル
６８　第２頂壁パネル
７２　中間パネル
７６　ハンドルパネル
Ｂ１　瓶（物品）
Ｂ２　瓶（物品）
Ｂ３　瓶（物品）
Ｈ　ハンドル構造（携行ハンドル）
Ｐ　水平面

【図１】

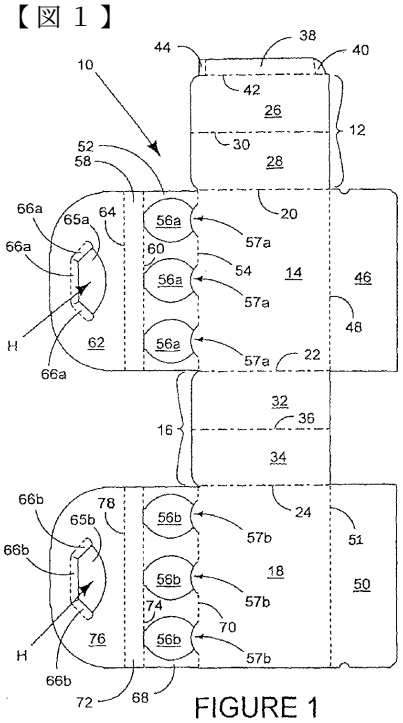


FIGURE 1

【図２】

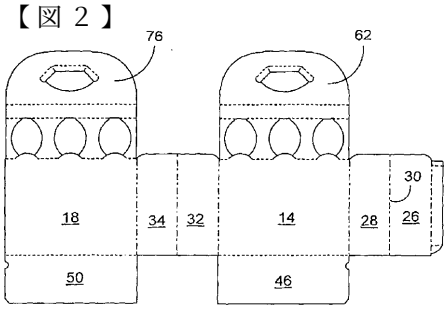


FIGURE 2

【図３】

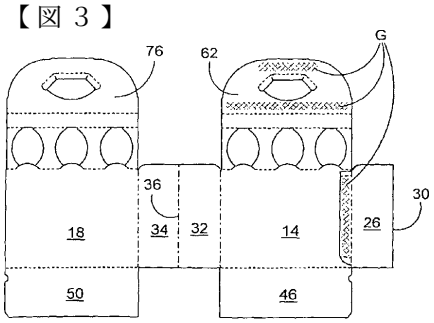


FIGURE 3

【図４】

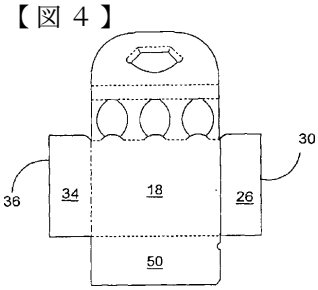


FIGURE 4

【図５】

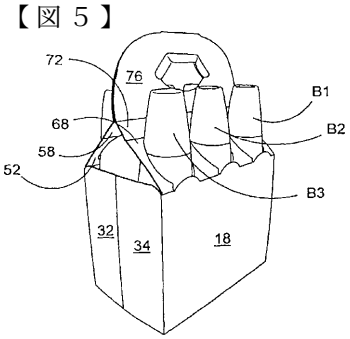


FIGURE 5

【図６】

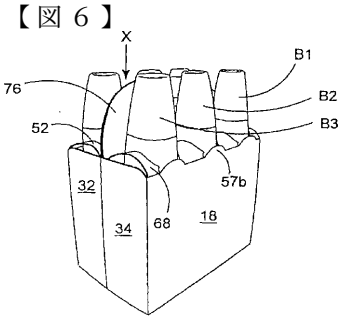


FIGURE 6

【図７】

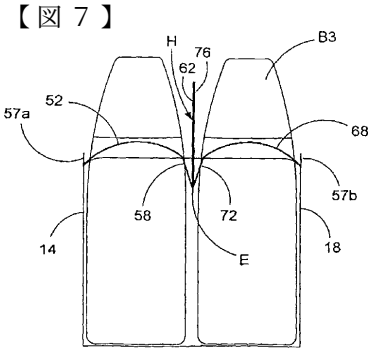


FIGURE 7

【図８】

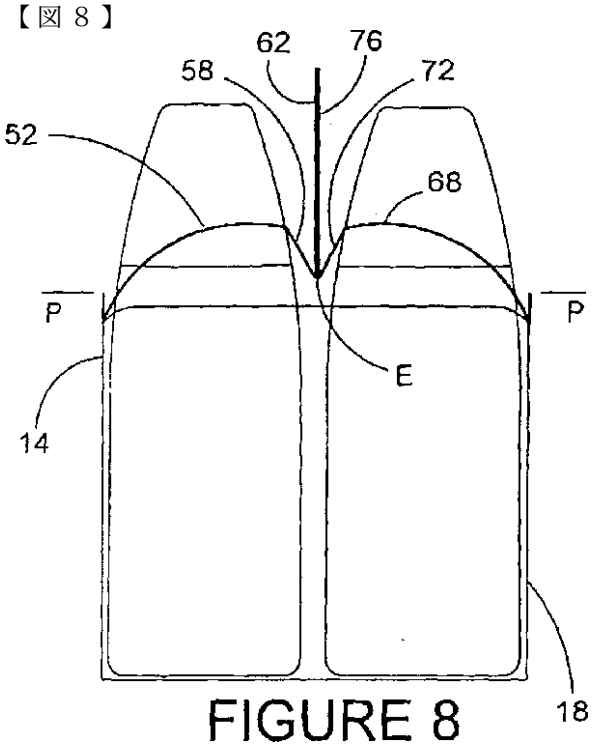


FIGURE 8

【図９】

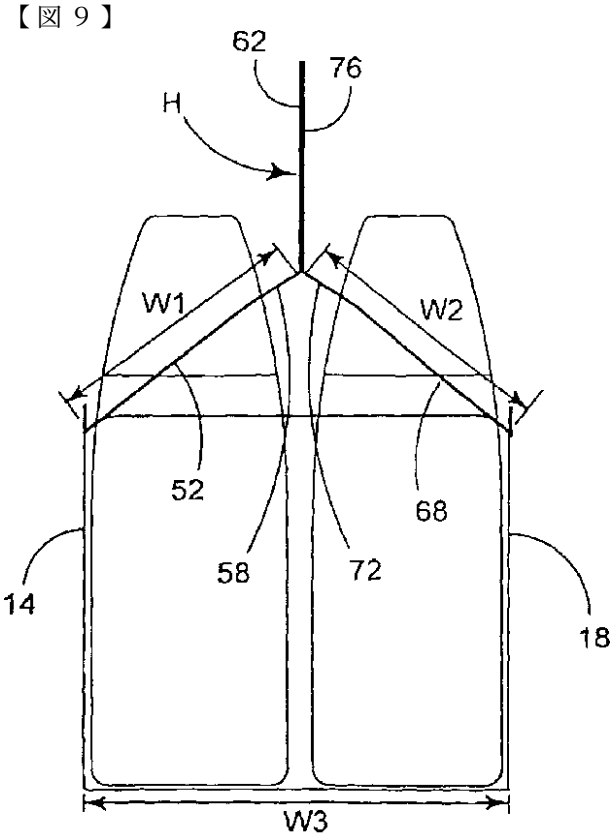


FIGURE 9

フロントページの続き

(74)代理人 100110364
弁理士 実広 信哉
(72)発明者 フィリップ・ルブラ
フランス・Ｆ－３６０００・シャトールー・リュ・ドゥ・ラ・ビエヴル・１３

審査官 山口 直

(56)参考文献 西独国特許第０２７２３９５７（ＤＥ，Ｂ）
米国特許第０５４００９０１（ＵＳ，Ａ）
実開昭５０－０１８６３７（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５２－１０４７１３（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
B65D 5/00-5/76